

産・学・都連携のメニューづくり急ピッチ
新成長産業の育成に向けて

今、この人に
聞きたい。

町の中小零細企業が made in JAPANの 心臓部です

「頑張る中小零細企業の
努力に報いる、政策実現を
ライフワークにする

東京都議会議員

鈴木 章浩氏



東

京都がいよいよ「本腰」だ。モノづくり産業集積強化支援、受注型中小製造業競争力強化支援、ベンチャー企業成長支援、産学連携デザインイノベーション等々、新たな支援事業を続々立ち上げたほか、制度融資の目標額を過去最大規模の2兆2千億円に設定するなど、これまでにない勢いで中小企業対策に取り組んでいるのだ。そこで今月の「この人に聞きたい」は、モノづくりの町、東京大田区に生まれ育ち、かつて自らも零細企業の苦しい台所を切り盛りしてきた経験を持つ、この問題に詳しい鈴木章浩東京都議会議員（49）を直撃した。キーワードはズバリ、「made in JAPAN」だ。とくとご吟味ありたい。
（聞き手／大高正以知）

.....
納税者に代わって東電は
厳しく追及していく

——まずは基本的な考え方からお聞きします。
リーマンショックからようやく立ち直り始めた
と思ったところへ未曾有の大震災と、サプライ
チェーンの寸断、顧客である大手製造業の海外
逃亡、そこへきて今度は消費税アップと電気料
金の値上げですね。この国の中小モノづくり企

今、この人に聞きたい。

業は、まるで何かに祟られたかのように、これでもかとはかりの酷い目に遭ってきて、更に遭わされようとしています。それでも多くの政治家は、口を開けば「自助努力」の一点張りですね。議員はその辺りをどう考えでしょう。

鈴木 あれもこれも一緒にすると誤解が生じますので、それらは別々に論じる必要があると思いますよ。まずは自助の精神ですが、これは誰にとつても、いつ如何なる場面であつても必要不可欠であると考えています。自助なくして共助は成り立ちませんし、いわんや公助となると国民の血税ですからね。1円だって無駄にするわけにはいきません。一方で災害や経済状況の変化に対する大きな枠組みでの備えや施策ですが、これはもちろん政治と言いますか、行政が責任を以てやらなければいけない話です。その意味では、政治家が国民の自助努力ばかりを口にするのは、自分の責任を薄めているような印象を与えかねず、あまり感心はしませんね。

——なるほど。そのように見ると分かり易いですね。では、現在国会で審議中の消費増税案と、東電の電気料金の値上げについてはどのようにお考えでしょうか。少なくとも本誌が取材した限りでは、いずれも怨嗟の声が上がっていますが。

鈴木 ええ。私も地元が地元ですからね、その辺りのことはよく分かります。大企業ならともかく、小規模事業者にとって消費税はある意味で「みなし経費」ですよ。おいそれと売上げ

に転嫁できる代物ではありません。それでもなくとも納税の時期になると、そのための借入れを起すケースが少なくないのに、これが今の民主党案のまま10%になったらいへんです。倒産するケースも出てくるんじゃないでしょうか。しかしそうは言っても、一方で社会保障の問題があります。国際社会がどう見るかという問題もあります。それらによつては国債が暴落することもあり得るわけですね。だとしたらどうするか。これは国の仕事ですから私が言うべきことではないかも知れませんが、私見として言わせていただきますと、消費増税の議論は、社会

“そのうち”ではなく“今すぐ”役立つ支援事業ズバリ

——その東京都の24年度の予算ですが、額の増減はともかく、中小企業対策に関する項目や配分を見る限り、これまでと重点の置き方が少々違つうように思えます。その辺の事情や狙いについて分かり易く説明していただけますか。

鈴木 そうですね。これまで以上に多面的な支援策を打ち出した予算と言つていいかと思えます。狙いとしては、まずは超円高などで苦しくなった資金繰りや、元請けの海外移転などで直面する危機を速やかに乗り越えられるよう支援すること。そして世に出すための人材やノウハウがなくて埋もれている可能性や斬新な技術に一層着目し、それらが日の目を見、新しい成長

保障の在り方とともに、徹底したデフレ対策、円高対策と並行してやっていくのがベターな選択ではないかと思っています。電気料金の値上げについては、今のままではある意味で論外ですね。(猪瀬直樹東京都副知事が仰っている通りで、まずは身を切る話が先ですよ。売却できる物は売却し、場合によつてはあの統括原価方式の見直しも含めて、徹底的に洗い直す必要があります。そのためにはまず、情報を洗いざらい公開してもらわないといけません。東京都は筆頭株主ですからね、納税者に代わつてその辺りは厳しく追及していく構えです。

産業に育つよう人的にも資金的にも支援すること。要するに厳しい経営環境が続く中で、一生懸命に頑張っている中小企業をガッチリと支え、その努力が報われるような環境づくりを、きめ細かくやっていくということです。

——具体的な支援策を幾つか紹介していただけますか？

鈴木 ええ。まずは中小企業制度融資ですね。これは大幅に増額しまして、融資目標で言えば、これまでの最大規模と同程度の2兆2千億円と設定しています。海外市場をお考えの事業主さんには、国際的ビジネス機会の拡大をお手伝い

【鈴木 章浩氏】

■略歴／鈴木章浩（すずき・あきひろ）氏…1962年生まれ、東京都大田区出身。大学在学時に精を出した海外ボランティア活動と、13年間に亘る零細企業（家業のクリーニング店）の経営から学んだ様々な教訓を糧に、1999年、自由民主党から大田区議会議員選挙に初出馬、新人トップ当選を果たす。2007年、東京都議会議員補欠選挙に当選。現在2期目。公営企業委員会理事、消費生活審議会委員などを歴任。現在は財政委員長。座右の銘、至誠にして動かざる者、未だ之有らざるなり（孟子）。家族、妻、一男二女。 公式ホームページ <http://akihiro3708.com>

する海外販路開拓支援事業というのがあります。

海外市場に詳しい企業OBらが講師となつて随時セミナーを開くほか、実際の取引にも関与するなど、実践的な事業として高い評価を得ています。他にも中小企業経営・技術活性化支援事業や製販一体型新製品開発支援事業、モノづくり産業基盤強化グループ支援事業など、いずれも「そのうち」ではなく、「今すぐ」役に立つ支援事業をズバリ取り揃えています。それと今ひとつ注目していただきたいのが、航空機産業への参入支援事業でして、これは特に東京の中小企業にとって、今後の有力な成長分野に育つ可能性が大いにあります。というのも、航空機づくりは関連技術分野が多岐に亘りますし、古くから東京のモノづくりが得意としてきた非常に精緻な技術を要するからです。（石原慎太郎東京都知事）知事もこれにはかなり期待を寄せておりまして、都としても今後、大いに力を入れて育てていく考えています。

——新規に始めた支援事業も少なくないようですね。

鈴木 そうですね。中でも目玉事業のひとつがモノづくり産業集積強化支援事業といまして、区や市町村と連携し、それぞれの地域の産業基盤をより強化しようという支援事業です。海外移転による産業の空洞化を防ぎ、世界に誇る東京のモノづくり産業の集積を維持、確保するのが狙いです。今ひとつの目玉は受注型中小製造業競争力強化支援事業です。これは基盤技術の

一層の高度化、高付加価値化に取り組んでいる

中小企業に向けた支援事業で、我が国のモノづくり産業の未来像から逆算して打ち出した事業と言えます。ご案内の通り今や大量生産、大量消費する工業製品は中国、インドなどアジアの新興国が、桁違いのマンパワーに物を言わせて世界に送り出す時代です。大手、中小を問わず、そんな中で我が国の製造業が国際競争力を一層強化するには、彼の国にはない、オンリーワンと呼べるハイエンドなモノづくりに徹することだとされていますね。そうなるにつまり、高度経済成長期のそれとはまた違う、新たな“made in JAPAN”の創出です。その新たなmade in JAPANの心臓部と期待されているのが、東京大田区をはじめとした町の中小零細モノづくり工場で、それを都が開発の初期段階から力強く支援しようということです。他にも大学とマッチングして製品開発を支援する産学連携デザインイノベーション事業など、産学に都が連携してのメニューづくりを、急ピッチで進めているところです。

——今回は中小企業対策のスペシャリストとの噂を聞いてお邪魔しましたが、噂に違わずさすがに詳しく、しかも分かり易くお話しくださいました。最後にどんなきっかけと云いますか、という思いから、中小企業問題をライフワ

クとしたのかをお聞かせください。

鈴木 政治の道を意識したのは、大学時代の海外ボランティアがきっかけです。アフリカのスーダンでしたが、毎日多くの子供たちが命を落としていくんですね。その子供たちを救えるのは直接的には医療でしょうけど、背景に安定した政治状況がないとそれすらできないじゃないですか。中小企業対策に精を出すようになったのは、やはり生まれ育った環境ですね。小さい頃から町工場に囲まれて生きてきましたし、家業がやはり小さなクリーニング店でしたから。それも父親が早く亡くなったので、若くして兄といっしょに跡を継ぎましてね。皆さんがそうでしたけど、働いても働いても生活が楽にならないですよ。最初の話ではありませんが、本当に自助努力をしていたんですよ。私も兄も、もちろん周りの町工場の親父さんたちも一生懸命になって。そこでこれは何かがおかしいと思いついてね。そのときの思いが、今の私の政治活動を支えている大きな要素であることに間違いはありません。だって一生懸命に頑張っている人たちが報われない社会なんて、あまりにも悲しいじゃないですか。

——仰る通りです。益々の活躍をお祈りしております。

頑張っている人が報われない社会なんてあまりに悲しい